

死亡者 61 名（うち倉敷市真備町 51 名）

行方不明者 3 名

重症 8 名

軽傷 152 名（うち倉敷市 103 名）

上記のデータからわかるように岡山県のほとんどの被害は倉敷市真備町で起きた。（豪雨時の状況）小田川左岸の堤防が決壊し、真備（まび）町地区（約8900世帯）の4分の1程度の面積が水没した。市役所支所が浸水や停電で機能せず、被害状況の把握が困難になった。7日午後7時半までに屋根上に取り残された人ら約450人をボートやヘリで救助。県外からも応援に入った消防や自衛隊による救助活動は夜を徹し、24時間態勢で続けられた。地区内にある「まび記念病院」も浸水し、取り残された患者や職員らの救出活動が続けられた。6日夜から体育館などでの避難所設営では1000人以上が避難してスペースもほとんどない状態。飲み物もほとんどなく、体調を崩す高齢者もいた。みな、まさか短時間で住宅の2階まで浸水するとは思わなかった」と話した。

被災地(倉敷市真備町)の現状

被災者の方は、毎日毎日、暑い中、片付けを頑張っておられます。気を張っているから、倒れずできていると言った、みなさん限界な状態です。環境が劣悪です。川が氾濫したので、泥が流れてきて、また下水なども流れてきている状況です。今は、道などは乾いているので、粉塵が酷いです。一日車を止めておくだけで、車は真っ白。また、匂いも酷いです。下水などが流れてきていますからね。暑さで腐ったような、なんとも言えない腐敗臭がします。クリーンセンターなどでゴミを受け入れているのですが、そこでの粉塵や匂いも酷いです。暑さも、連日 35℃超え。もちろんクーラーなど使えるお家もほとんどないので、熱中症者も多数。ゴミですが、道沿いにもたくさんあります。他にも動けなくなった車がそのまま放置されていたりします。道沿いに出しているゴミは、自衛隊などが回収して行っているみたいです。道沿いにゴミがあり、また、真備町はもともと道の狭いところが多く、車が通りにくくなっています。ボランティアなどで来られた方の車も多く（最初は被災地を見学しに行くだけの輩もいたようです）、真備町内は、大混雑。時間帯によっては、現場に着くのには数時間かかることもあります。また、火事場泥棒で、窃盗が多発していると現地の方が言っていました。逮捕者も出ています。心無い人がいますね。被災者の方が現在住んでいる所ですが、2階が無事だった人は、2階で住んでいたり、親戚、実家、兄弟の家、働いている会社が提供してくれる寮などで生活されているとのこと。

今後の対応

被災者の方は、とにかく時間に追われています。なぜなら、早く片付けをし、家の壁や床下を乾燥させなくては、家の柱が腐ってしまいその家に住めなくなってしまうからです。また、暑さのせいで、片付けをしていないと、日に日に腐敗臭が強くなってしまいます。また、リフォーム業者や工務店にお願いすることになると思うんですが、それも順番となります。早く対応すればするほど、いつも通りの生活に戻る時間が早くなります。現状はこの状況に対して早急のヘルプをしてあげることがボランティアに求められていることです。具体的に言うと、（一度、水に浸った家具やゴミ、その他は一旦外に出され使用できないものはほとんど捨てられて道端にゴミの山ができていますが）その後、住める家はバールなどで全部床を剥がし床下にある土砂を排出し、（消毒なども含め）きれいにしたあとで再度、住めるように改築していくという流れです。現状的に他にもあらゆる復興作業があると思いますが、この「全部床を剥がし床下にある土砂を排出する作業」が主だと思います。（東北の災害時においてボランティアの経験ある牧師先生が言うには「東北の場合、津波の被害であったので塩水と海水下のヘドロの匂いで家はしっかりしていてもあまりの悪臭で家を手放す方たちが多かった、また、やむ負えなかったが、今回、真備町の場合は家は 2 階まで浸水したが、雨(水)なので、まだ匂いがましなだけ、リフォームして住もうとする方たちがほとんどです」と言っていました。だからこの、床下の土砂を出してリフォームするのに住民が焦り、そこるところにボランティアが、必要だと言う訳です。少し前までは水に染みだした畳などを外に出すのに大変だったそうです。またその他に大変なのがゴミの分別作業です。中にはスプレー缶などがあり爆発する恐れがあるようなのでボ

ランティア保険に入っておかなくてはなりません。

求められていること

私(金承熙牧師)は、ボランティアセンターなどへの救援物資の配送、そして家の床下の土砂などを洗ったり、掃除したりする作業、また、ダンプなどでのゴミの収集運搬などをして奉仕させていただいておりますし、現在、進行中です。また、所属団体は、岡山のキリスト教会連合会(超教派)が立ち上げた岡山キリスト災害支援室に入ってボランティアをしております。幸い、岡山では、在日大韓基督教会も日本基督教団も人命にかかわる被害はなくて済みましたが、地域の住民のために尽力していかなくてはなりません。岡山キリスト災害支援室の代表者(吉岡創、木崎、草井)達はみなさん牧師先生ですが、声を揃えてボランティアの数が全然、不足していると訴えています。今まで岡山県は日本の中でも「晴れの国」と言われるくらい、災害のない土地でした。ですから一般の人たちは「岡山に災害なんて」という事で住んでいる当事者たちも未だに信じられない方々が少なくありません。他県からもおそらくそういうイメージで捉えられ被災地という認識は薄いのではないかと思います。しかし真備町での被災は多くの犠牲を出し、現在も大変な状況です。支援金などの送り先は様々かと思いますが、社会部の方に委ねます。因みに私が現在、支援活動(協力)しているのは下記の所です。

2018年7月25日(水)

在日大韓基督教会 岡山教会 金承熙牧師

支援金の受付

口座名「岡山県宣教の集い岡山キリスト災害支援室」

郵便振替 01340-5-107209...